社長の素顔

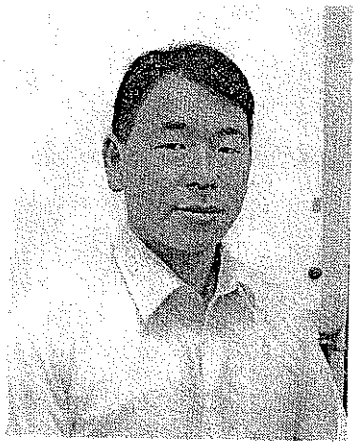
■142■

武道で鍛えた精神力

柔道2段、空手初段。朴訥とした見た目からは全く想像できない。レックアイの鈴木徳之社長は、中学・高校で柔道、高校の途中からは空手も始めたという体育会系の見本のような経歴の持ち主だ。防衛大学校では「三地獄」と言われていた空手道部で鍛えられた。反面、中学時代は柔道部と掛け持ちしていた写真部で部長を務め、コンテストで入賞したこともあるという多彩な人だ。

（中川晋一記者）

レックアイ・鈴木徳之（44）



会社概要

【㈱レックアイ】◇本社／東京都豊島区西池袋3―30―3　西池本田ビル2階◇設立／2003年11月7日◇資本金／5000万円◇従業員数／45人◇主な業務／IT化支援コンサルティング、不動産会社向け業務管理システム開発、不動産営業支援業務アウトソーシングサービス、Web制作など

■趣味／旅行・読書「海外。特に南の島に行くのが好きです」「経済小説が好き。学生時代には年に200冊くらい読んでいました。今は経営のHowto本をよく読んでいます」■座右の銘／本質直視、バランス感覚

1962年9月、宮城県で生まれる。

小さい頃はとにかく"やんちゃ"。「親が建設会社をやっていたので、自宅にはトラックや工事車輌がたくさんあった。そのトランクに入って、工事現場で見つかる、なんてことは日常茶飯事でしたよ」

中学に上がると柔道部に入部。掛け持ちしていた写真部では、部長も務めた。当時はスーパーカーブームの全盛期。カウンタックなどの写真を撮っては文化祭で販売していた。

高校は地元の進学校、仙台第三高校に進む。

16歳の誕生日を迎えた2週間後に中型二輪の免許を取得。週末には東京や箱根にツーリングに出かけた。夏休みに仲間と行った本州一周のツーリングが人生観を変える。

「狭いと思っていた日本が実に大きった。ならば、日本の中心地である東京で働こうと決意しました」

高校時代「東京で働く」その決意が現実のものに

後に、その決意は現実のものとなる。

高校2年からは極真空手の道場にも通い始める。柔道二段、空手初段の実力者だ。「柔道部にも入っていて、それに加えて空手ですからね。友人にも『よくやるなあ』なんて言われてました。今でも、若い人には負けないですよ」と笑う。

大連でシステム開発のパートナーと

大学は防衛大学校へ。

「高校で前の席に座っていた自衛官の息子に誘われたんですが、受験料はタダだし演習場を一度間近で見てみたかった」と軽い気持ちで受験するが見事に合格。父親が事業に失敗していたため、家計の助けにもなると思い入学を決めた。大学では、当時「体育会系三地獄」とも呼ばれていた空手道部に入部。一年生のころほどとにかく厳しかった。「軽いトラウマですよ（笑）。でも、あの厳しさを乗り越えてきたので、多少のことには屈しない精神力はつきました」

卒業し、大京（当時は大京観光）に入社した。大学は外出可能なのが土曜午後と日曜日だけなので、土曜日に面接してくれる会社を探した。その時間に面接してくれる会社は皆無。大京だけが第2、4土曜日も午後6時まで営業しており、なんとか面接にこぎ着ける。

「これは運命だと思いました」

入社後は、大京の人事・経理・営業などあらゆるシステムを構築して標準化。そしてインターネットが登場してきた。ネットでマンションを販売するスキームを立ち上げた。当時、業界内では大京が最も進んでいたと言われていて、他の大手デベロッパーも鈴木社長のところに勉強に来ていたほどだ。00年、ネット戦略室の初代室長に就任する。ここで、会社の仕組みを作るということがどういうことなのか分かった。

03年、大京を退社してレックアイの前身の会社を立ち上げる。夢は業界全体の底上げだ。

「中小デベロッパーは非営業部門が、事務や経理に手間がかかっており、よりよい商品企画やお客様へのサービス向上が手薄になりがち。当社のシステムやアウトソーシングサービスで手間を省いて、業界がもっとお客様の方向を向けるようにしていきたい」